

橫

增補

鐵櫃

下之



け段もあ段とあまうくま上のり五十

とてしるゝ事なくも、あはたの藤をわて

もろくも心とてはくた

毎う、いふなりとも人なりか

一

上卷 五言古詩 五言古詩 五言古詩 五言古詩 五言古詩

独渡の事 勢よくとる

五

水成石の層

[illegible]

のうにんぎょ

之
計
同
一
書
三
卷

しきとて

しちりとや

才
變
也、
乃
由
多
人
又ギ
能
一
の

し、眼にあらざるものゝ正體を上のくゝし

夢ろそふせさる中
 ありとふさる中

祀

妙品

什物

吾國とやらを案の中

ちよふふこつを物なり。

人のちろあそび

ととあふ。一。乗。を。五。六。

先づ、思ひては、此の如く、

うのふあやうに事や

あゝとてとてとてとてと

事とハ申也。あれ秘^ニ蔵^{サレ}ス。

工

いふのふ人だといふ

堪^カなりとゞど色^{イロ}堪^カ純^{ジュン}の雅^カ

五十一

は段もあつたは又^{また}藝の上のつゝと
とつとをうきてよゝの藝能も作も
あつたふせさうす一なりとつゝと
記せり

曾侯志

北金提卷五

是より我一生の事

一と云ふことありしを
 なくして學ぶことあり

日泰とうの人 一ねり一生のちひひ
 あうまうききききききききき

くさくさハ二ちのなりさうたふ
基經と爛柯經と異とて中ニ拾水取

天と云ふは
水より上
出れり水は
地を流る

しらぬをとりく護せり
氣とりとむ人 是又多くをえてかたり

いそは酒さうんろと刀つぎはうろとゆふ
ふりさうろろは瓶さうろとてふと云ふ

日
と
日限多れを今よりきし、
と

菩提心
菩薩本行經云夫懈怠者衆行
之累在家懈怠則衣食不供產業不舉

出家懈怠則不能出離生死之苦
事と云ふ人といふ、
は一瞥一瞬の眼目

人ありては、是れ我れありては、
不平等と雖、のちなりとも、
平等と雖、

[illegible]

うんそれを畧しくいふふ川筋なり

すうにやそか入るにやそかのすうに

長一尺二寸ありありを以て彼中にありあり

中をぞ乃とて云と云ハ馬麻のゆゑこれ

人の事とてさういふ事でも人を知り

なりまゝさう乃落しハ酒とふまゝさう
とつちふまするなりをさうとつちふまゝ

越前名所絶頂 西行 乙巳のちふ満

うのみ奥ひさしそとふのいふとハヤヤヤ
詞花よ 十巻 五編 吾邦の人の

敏則有功
論語陽貨篇

事因緣故出現於世

音に能るは、擅シテ那ナす也

まじくちふーとて^{。サウ}ま^カど

子子子子子子子子子子

乃^ノ口^コヤ^ヤウ^ウク^クニ^ニハ^ハ入^イル^ル

むづくくきききき

てあゝと云ふなり。小。税。經。

あふくちふくちふくち

つふたり。げほ野のそりも

あゝとせむ乃人きてい

こと何となく程ハ

法書と刀とそとある所

卷之六

何とぞとて来ひさく

あまのり

けあゝ。世に東より

て打たるる法の中を

あさりたる國乃おれとに

乃中々されて月日とぞ

あまにくみなり事か

くくやハ老ねたふ物

乃上乃更乃乃乃乃

やうな事なれ

曾失色卷五

De

さうさー。女もあつてふたつ。鏡とりてみる。
どはくろひあつてうお義まれ

神仏も。お後のあまうへに五十六
つたりとさうさうさうさう

い段の世に我人いふに五十七

とて物なれたたふい我ゆゑと人

はるねしとて我もさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

とまわらるゝハひとのきざれはと周知せしめんあるものなり
定額のものもさういふものの教をて定められ又さういふ傷に傷ありてさういふ
傷となりとおぼえさういふものでさういふ傷や或ハ死一或ハ還俗するものとされ去番索り
しておぼえけな縁をぬりさういふ傷のねを要とするところは家の傷といふ
りや 延喜玄蕃式云凡僧正從僧五人沙弥四人童子八人大少僧都各從僧四
人沙弥三人童子六人律師各從僧三人沙弥二人童子四人威儀師各從僧一人
沙弥一人童子二人從儀師各沙弥一人童子二人 弘仁文曰太政官府禁斷京
職幾内諸國私作伽藍事右奉勅定額諸寺其數有限私營作先既立制此來所司
寬縱曾不糾察如經金代無地不寺 十八史畧第七元以耶律楚材言始定天
下賦稅上田每畝稅三升中田二升半下田二升水田一畝五升商稅三十分一五
分出絲一斤以給諸王功臣湯沐之賜塩每銀一两四十斤永為定額これ教のこ
まりさういふと定額とさへ唐志にさういふ 女孀 禁秘抄云近代不著衣只小袖唐
衣也以左道法御調度觸手上下格子奉仕是藏人等如在不當故也御所中掃除
指油使女孀所知也 女孀 玉篇云孀下妻也 文段抄云内侍蔵司書計等
乃女友の下に女孀たりたりとおぼえさういふと掃除指油するもの役とさういふと抱之内儀の
下に女孀一百人を院司の下に女孀十人書司の下に女孀十人とほろの職負令
うもさういふのを定額の女孀といふさういふを代ハ女孀さういふあつこと
六十卷あり 延喜式より右大臣本末初とうき 性空よりほあつめて是を撰と
公人の通号 定額といふは公衆の人の教

〔六十三〕
楊名分 にうさうとと 楊名
目と云ふのは政事要略より

揚名^{オウノミ}のくにうきとて揚名^{オウノミ}
目^{サシメ}と云ふものゝ事要略^{ヨウリョク}より

ふり外に目もあつとまゝなり
頼あ段乃流る乃後れを
おきくこと女孺うを
定額といふものなり
楊名介 保田夕良乃書す

こころり古抄は官の假名の趣名に呼なりとも今ハ能書ニハ揚名分ありハ揚名か
菱乃巻之ミコウヒトウ 柿乃巻よとのあまゆいふなりとあらば源氏三ヶの二つと云
十段抄ニ新續古今雜中ニ云源氏抄よりイラキヲの揚名分のものとあるのは又源氏三ヶの二つとして
め系振明の信イナノミヤ はえといふも信ふく思の宿有のありのと人ともクサ
西一 丹波常守の信イナノミヤ あてふそれともうりイナノミヤ 信イナノミヤ そしね ささきさぬゆすかうイナノミヤ
とよめひびきよりよみて人の心よりさうとみえたり

取事 通判

百三十卷あり 惟宋名氏選記云六十二
 卷あり 彈雜事至西曆時雜事等
 務交賢は

居位ぞ一人のふくむ物なりしをうとす
蛙抄六卷よ虫之

律 或人の云はるべしなりきなりき
律 いふなりてこりなき人なるなりき
和 いふなりきなりき一日なり人のなりき

ハ清濁ありふさうきこゆる是律呂乃石
用律ハ秋ハ用該土モハ律セ陽ハ用云用呂陰
ハ竹 六百番定家佛名歌 河竹乃 六十四
ろひくせ風はよりて三世の松のさうと

三ノ口
三ノ口
三ノ口

横川乃行宣は中ごろの
 へ。唐土より呂のふへ。律の
 あり。和ふハ單律乃ふて
 呂のふたりしとやき

同人之たり呂律ハ陰陽ニ具スルハ口ハ春ハ
 用ヒ秋用ハ冬律 寒ハ独ニ這セリハハニ云ハヒ
 クレタケ
 吳竹ハ寒必ヤセク河竹ハ
 カワタケ

紫の海
涉^三海^サ又^二六

科人をもく抄り 和名云

唐今云首音知和名之毛度大頭二分

小頭一分半 又云杖育仗和名都惠

皆削去節目長三尺五寸許

携帶 平篇携君老切打也 水回携羅

といふもいふも 漢乃系帝の肉儀

云々市肉刑と陰で刑の名とといふもは

重罪といふ事あり 一とありふあ

二百と二百と二百と二百と二百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

六百と六百と六百と六百と六百と

携帯乃極もいふ作法

人もいふ

比叡山より大帥勸誘の起

事。法曹はいふとて起

いふ一乃聖代とて起

先結々也起誘又とい

事。法曹はいふとて起

いふ一乃聖代とて起

先結々也起誘又とい

事。法曹はいふとて起

いふ一乃聖代とて起

先結々也起誘又とい

事。法曹はいふとて起

いふ一乃聖代とて起

先結々也起誘又とい

事。法曹はいふとて起

いふ一乃聖代とて起

先結々也起誘又とい

事。法曹はいふとて起

いふ一乃聖代とて起

先結々也起誘又とい

なれもくろく鬼のやうに思へ

弘治癸亥

○
十
七

坐殿

五ノ下へ
ふろをきくは
いふに
とらひて
しる

無行云

無好云

七十三

福之

て、世イあさきううク南から利口の面をさ
のころころー

問毓何以拜毓曰酒以成禮不敢不拜

訴

子々々々

勝父者ノ云

此後とハねりりくわんり

石與子

七十四

ヲテコエリ

信標

三

水

美

考

卷八

いづこもハ。去乃也なり

とどろいてつるるる

とちさうふさるゆゑ

あふまをむかひに

二、多かりし時、招魂せうこんの法と

しをうへにあり。先、

と代の教人いふと秘しつてはあはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
○或抄は後とていふこともいふはれ
俗の教よりとりていふこともいふはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
云揚名基法心教に中にあひて大衆
いふと秘しつてはあはれ

語るなり。万葉集のあつた
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
とつてあつたなり。万葉集のあつた
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ

ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
云揚名基法心教に中にあひて大衆
いふと秘しつてはあはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
文段抄は後とていふこともいふはれ
俗の教よりとりていふこともいふはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
云揚名基法心教に中にあひて大衆
いふと秘しつてはあはれ

金葉集

仲良

基後

ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
云揚名基法心教に中にあひて大衆
いふと秘しつてはあはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
文段抄は後とていふこともいふはれ
俗の教よりとりていふこともいふはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
云揚名基法心教に中にあひて大衆
いふと秘しつてはあはれ

真言書乃中
聖推云余後乃中
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
云揚名基法心教に中にあひて大衆
いふと秘しつてはあはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
文段抄は後とていふこともいふはれ
俗の教よりとりていふこともいふはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
云揚名基法心教に中にあひて大衆
いふと秘しつてはあはれ

ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
云揚名基法心教に中にあひて大衆
いふと秘しつてはあはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
文段抄は後とていふこともいふはれ
俗の教よりとりていふこともいふはれ
ふくされともいふまじに揚名かゝり
あつたともいふまじのまじりてあはれ
はあつたともいふまじのまじりてあはれ
云揚名基法心教に中にあひて大衆
いふと秘しつてはあはれ

文段抄云云
皇某復遂以其衣三招之乃下以覆戸下界
あれは

文段抄云云
皇某復遂以其衣三招之乃下以覆戸下界
あれは

文段抄云云
皇某復遂以其衣三招之乃下以覆戸下界
あれは

曾我建武五

十

七十五

弟乃とハねむるもあ

うるふ人を。よく抱かれむ

いふところあり

いふひありとくまのむ

をいふ。おもしろ物せんやうな

見あり
わさ子
わさ子

時乃ウレチふ失いやまーザ

つゝとてねむるべし
時ありに遠くを

くろく。顔ガシ目メも不フ孝カウなり。

[illegible]

君の病をわすれ

どうもききとらつたの

又^{アツ}ぐりとそねむる

どろひさけふもなり

のふりて

人の志をもめしむ

必奪ん統と已む

ど伝わゐるやうなう

美人なを頼まふは是

なる時ハ一ノ二ビ^ハ三ノ四時

サ
ユウ

うゝにたひん事

曾侯之

De

こりやうしん 山家集はあまのそ
わうしんやとらふもとのりしめり

秋の月の月 歐陽詹既月詩唐月

之為既冬則繁霜太寒夏則蒸雲太熱

雲蔽月霜侵人蔽與侵俱寓既秋之於時後夏先冬八月於秋季始孟終十五於夜

又月之中替於天道則寒暑均收於月數則蟾兔圓丸埃盡不流太空悠々嬋娟徘徊

細舞華上流星東林入西樓肌

骨與之疎涼神氣與之清冷

は段々をさるとり

大煙 やうさ比多岐とあきとさうさ

火ろしとじ

直のさとしふりつ

清夜 ちろささるま

炭とさる

さうん人ハ下になう

つとま事なり

沸あろ火煙よ火とをく

時しだもてとさむ

あうがうあうりたち

ようつとぶ

さうさる

やうさる

さうさる

さうさる

さうさる



